

DPCにおけるICD10（2013年版）への改定と コーディングテキストの改訂について

川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部
医療情報学科 阿南 誠

本日のお話

1. データ精度にかかると議論

- 1) ICDに関する日本版DRGの時代からの課題
- 2) 過去、最近、詳細不明コード（.9コード）、新たな「未コード化傷病名」の議論
- 3) 発生する要因（ICDとDPCの出自の違い）
- 4) 標準病名マスターの理解

2. ICD-10（2013年版）改定の影響

※資料中、西暦と年度と混在がありますがご容赦のほど。

1) 日本版DRGの時代からの課題

◇傷病名は「考え方」だから、厄介な課題である。

- 1) 平成8年度の中医協の議論を経て、平成10年11月、国立病院等10病院を対象に、入院医療の定額支払い方式の試行、すなわち日本版DRG試行を開始した。
- 2) 現在のDPCと同様に、基礎調査として各病院から今で言う、様式1、様式2等を収集したが、ICDについては十分に普及しておらず、データの精度は危惧されていた。
- 3) そのような中、当時から関係者は改善に努力してきた。

◇データベースの精度という課題

- 1) ICDが国立病院で十分に一般的ではなく、当時の10病院のうち、診療情報管理士を配置し組織があるのは、3病院のみであった（ICDコーディングを中心としたデータベースを持っていた）。
- 2) 制度の試行にあたっては、データ精度を確保するために、試行病院に対する勉強会等を実施したが、「事実」の定義は改善が容易、「考え方」の定義は困難に直面した。

※「事実」：日時、救急の有無、手術の有無等・・・

→「考え方」：傷病名→理解や意識を統一するのは大変

→本来は「診療記録」がその根拠ではあるが・・・

※この問題に対して、対策が早急に議論された

→担当官の病院行脚、精度改善のインセンティブにするための施策。

厚生労働省の対応

- 1) 当時の厚生省の担当者は、各試行病院を行脚し、診療記録の記載や傷病名、ICDコーディング等について、改善を依頼した。
- 2) さらに、コーディングについては、試行病院(現在でいうと対象病院)、および国立以外のデータ提出病院(現在でいうと準備病院)を集めて説明会、セミナーを実施した。
- 3) これらに用いるために、正しいコーディングを行うための資料を作成した(後述)→現在の、影響調査説明書、コーディングテキスト等。
- 4) 同時期に問題になっていたカルテ開示が進まない件も踏まえて、「診療録管理体制加算」を誕生させた。

研究報告書

当時打たれた対策の一つ

平成12年3月31日

社団法人病院管理研究協会
会長 小西 宏 殿

フリガナ:アナン マコト
研究者 氏名:阿南 誠
(所属施設:国立病院九州医療センター)

平成11年度厚生省社会保険基礎調査委託費(急性期入院医療の定額支払いに関する調査研究事業)に係る研究事業を完了したので、次のとおり報告する。

研究課題名:急性期入院医療の定額支払い
試行にかかるコーディングガイドの開発

<参考> 当時作成した資料の一部

国際疾病分類（ICD）の体系：ICD9とICD10の対応表						
章	ICD9	分類	章	ICD10	分類	留意点
I	001-139	感染症及び寄生虫症	I	A00-B99	感染症及び寄生虫症	局所感染は除き、原因菌、病原体を記載（妊娠合併、周産期を除く） （転移の場合）、術後、治療後を記載、単なる嚢腫は新生物ではないので注意
II	140-239	新生物	II	C00-D48	新生物	
III	240-279	内分泌、栄養および代謝疾患ならびに免疫障害	III	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	薬剤等の外因に起因する場合はその原因を記載
IV	280-289	血液および造血器の疾患	IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	薬剤等の外因に起因する場合はその原因を記載
V	290-319	精神障害	V	F00-F99	精神および行動の障害	詳細な型の記載(ICDの成書を参照すること)
VI	320-389	神経系および感覚器の疾患	VI	G00-G99	神経系の疾患	遺伝性、変性疾患、その他の障害、急性か後遺症かの区別
			VII	H00-H59	眼および付属器の疾患	左右、両側を明示
			VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	急性、慢性、左右、両側を明示
VII	390-459	循環系の疾患	IX	I00-I99	循環器系の疾患	リウマチ性、高血圧性、急性、亜急性、陳旧性の明示
VIII	460-519	呼吸系の疾患	X	J00-J99	呼吸器系の疾患	急性、慢性の区別、病原体の記載
IX	520-579	消化系の疾患	XI	K00-K93	消化器系の疾患	急性、慢性の区別、病原体の記載、詳細な部位の記載
X	580-629	泌尿生殖系の疾患	XII	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	部位の記載、感染性の場合は原因菌、病原体の記載
XI	630-676	妊娠、分娩および産じょくの合併症	XIII	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	病変部位の記載、神経障害の有無、新鮮損傷と陳旧性の区別
XII	680-709	皮膚および皮下組織の疾患	XIV	N00-N99	尿路性器系の疾患	妊娠がある場合はその記載
XIII	710-739	筋骨格系および結合組織の疾患	XV	O00-O99	妊娠、分娩および産じょく	妊娠週数、分娩方法の記載、自然分娩以外は原因疾患の記載
XIV	740-759	先天異常	XVI	P00-P96	周産期に発生した病態	周産期の病態のうち先天異常を除くものが該当
XV	760-779	周産期に発生した主要病態	XVII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	先天性の記載
XVI	780-799	症状、徴候および診断名不明確の状態	XVIII	R00-R99	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	
XVII	800-999	損傷および中毒	XIX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	の区別、骨折の場合は開放性、閉鎖性の記載。また、処置手術に起因する病態はその旨を明記する
	E800-E99	損傷および中毒の外因の補助分類	XX	V01-Y98	傷病および死亡の外因	疾病分類には原則として使用しない
	V01-V82	保健サービス受療の理湯に関する補助分類	XXI	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	

<参考> 当時作成した資料の一部

表3：ICD9、ICD10に準拠した汎用病名の例示と疾患名記載についての留意点：ICD9順に配置

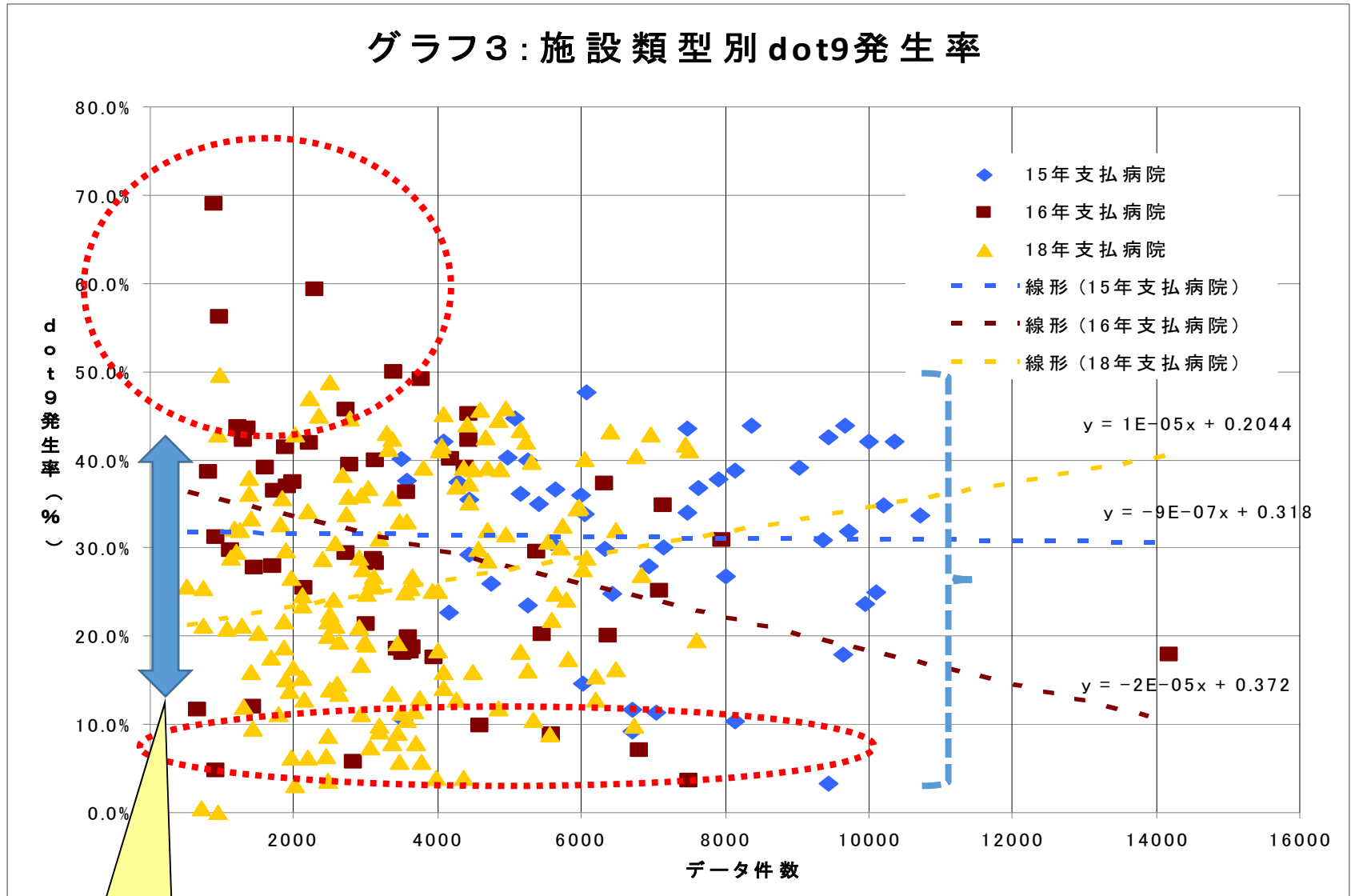
ICD-10	ICD-9	疾病分類（疾患名）	汎用疾患名の例	留意点
A04, A08	008	その他の病原体による腸感染	ぶどう球菌性腸炎	原因菌（大腸菌、アリゾナ菌、アデノウイルス等）の記載、感染性か非感染性かの記載
A09	009	診断名不明確な腸感染	感染性大腸炎	原因菌の記載
A15	011	肺結核	肺結核	検査方法の記載、陳旧性か否かの記載
B02	053	带状疱疹	带状疱疹、ラムゼイ・ハント症候群	多発、単神経、合併症の記載
B00	054	単純疱疹	単純疱疹による角結膜炎	多発、単神経、合併症の記載
***	070	ウイルス性肝炎	慢性C型ウイルス性肝炎	激症、慢性、急性、型の区別の記載
B15	***	急性A型肝炎		
B16	***	急性B型肝炎		
B17	***	その他のウイルス肝炎	急性C型肝炎、急性E型肝炎	
B18	***	慢性ウイルス肝炎	慢性B型肝炎	
B19	***	詳細不明のウイルス肝炎		

◇DPCの導入と精度

- 1) 2003年（平成15年度）よりDPC導入
- 2) 2007年（平成19年度）にICDコーディングの精度問題がDPC研究班(当時の松田班)から初めて報告された。

このことが、平成20年度の委員会設置義務付けに繋がった。

グラフ3：施設類型別 dot9発生率

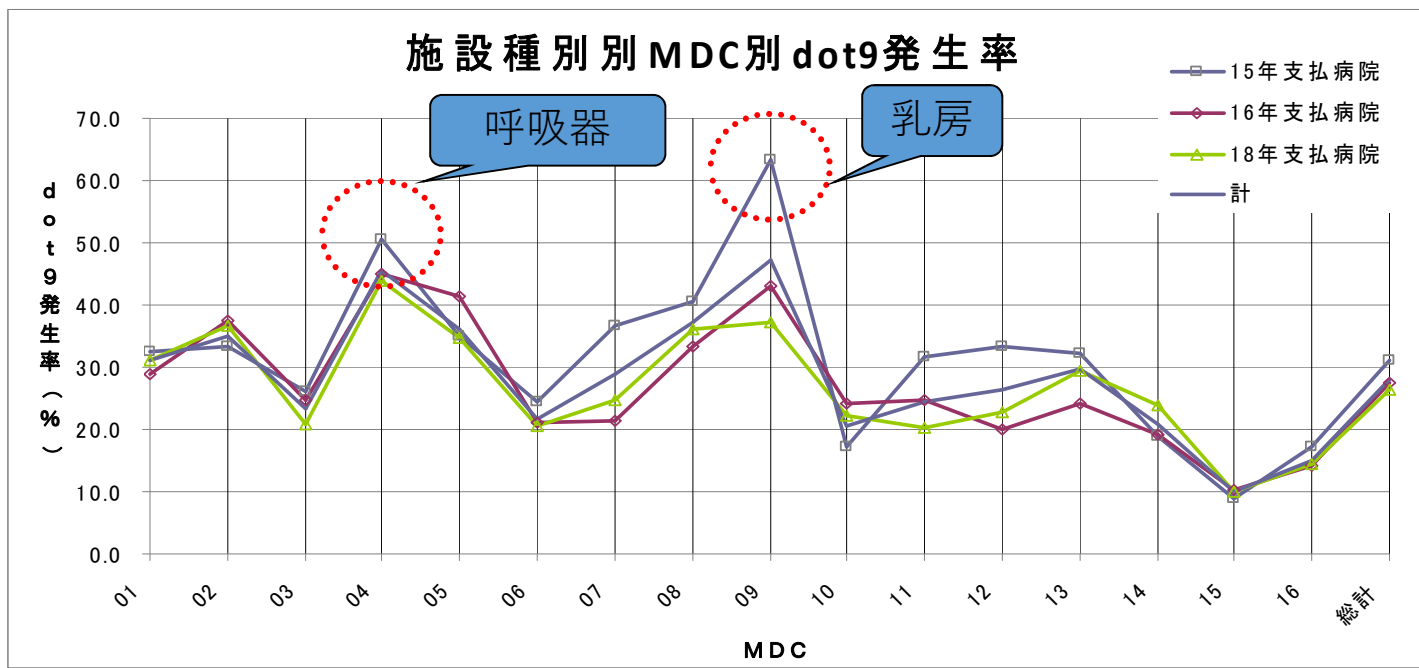


この差は？

平成19年11月2日、D P C 評価分科会：施設類型別のMDC別「.9」発生率

50%を超えたもの

MDC	DPC対象病院			16年支払病院			18年支払病院			計		
	ALL	dot9	dot9%	ALL	dot9	dot9%	ALL	dot9	dot9%	ALL	dot9	dot9%
01	23,201	7,570	32.6	12,709	3,682	29.0	40,296	12,514	31.1	76,206	23,766	31.2
02	27,480	9,140	33.3	7,491	2,807	37.5	21,973	8,042	36.6	56,944	19,989	35.1
03	18,929	4,939	26.1	8,546	2,104	24.6	25,345	5,270	20.8	52,820	12,313	23.3
04	28,336	14,315	50.5	22,548	10,119	44.9	66,318	29,030	43.8	117,202	53,464	45.6
05	33,350	11,660	35.0	19,946	8,259	41.4	58,598	20,384	34.8	111,894	40,303	36.0
06	63,473	15,491	24.4	42,653	9,056	21.2	126,998	26,144	20.6	233,124	50,691	21.7
07	24,524	9,024	36.8	9,114	1,941	21.3	27,785	6,840	24.6	61,423	17,805	29.0
08	4,720	1,916	40.6	2,188	727	33.2	6,439	2,328	36.2	13,347	4,971	37.2
09	4,896	3,102	63.4	2,240	965	43.1	6,896	2,558	37.1	14,032	6,625	47.2
10	13,850	2,381	17.2	6,124	1,479	24.2	17,822	3,940	22.1	37,796	7,800	20.6
11	25,739	8,155	31.7	16,111	3,985	24.7	46,552	9,481	20.4	88,402	21,621	24.5
12	27,947	9,316	33.3	10,796	2,168	20.1	32,915	7,506	22.8	71,658	18,990	26.5
13	9,922	3,194	32.2	4,618	1,118	24.2	12,360	3,651	29.5	26,900	7,963	29.6
14	11,184	2,112	18.9	3,782	727	19.2	9,104	2,170	23.8	24,070	5,009	20.8
15	2,969	268	9.0	4,467	455	10.2	12,466	1,265	10.1	19,902	1,988	10.0
16	20,901	3,626	17.3	15,152	2,157	14.2	45,734	6,576	14.4	81,787	12,359	15.1
総計	341,421	106,209	31.1	188,485	51,749	27.5	557,601	147,699	26.5	1,087,507	305,657	28.1



- C34 気管支及び肺の悪性新生物
 - C34.0 主気管支
 - C34.1 上葉, 気管支又は肺
 - C34.2 中葉, 気管支又は肺
 - C34.3 下葉, 気管支又は肺
 - C34.8 気管支及び肺の境界部病巣
 - C34.9 気管支又は肺, 部位不明

疑問：手術をしていながら、詳細部位が不明ということがあるのか・・・？

- C50 乳房の悪性新生物
 - C50.0 乳頭部及び乳輪
 - C50.1 乳房中央部
 - C50.2 乳房上内側4分の1
 - C50.3 乳房下内側4分の1
 - C50.4 乳房上外側4分の1
 - C50.5 乳房下外側4分の1
 - C50.6 乳腺腋窩尾部<Axillary tail of breast>
 - C50.8 乳房の境界部病巣
 - C50.9 乳房, 部位不明

このような違いが発生した要因は、

- (1) オーダーエントリーシステムで医師が入力することが主体
- (2) そのデータにチェックの目が入らない
- (3) データの制度を担保する組織なりシステムが存在しない

であろうと推察された。

★その理由は、大学病院で顕著にその傾向がみられたことから、当時、オーダーエントリーシステムを導入し医師による入力が一般的で、その影響と推察。

※さらに傷病名マスターへの理解が十分ではないことも。

この「問題」発生については2013年版改定でも同様。

2) 「.9」、「未コード化傷病名」の議論：DPC評価
分科会での提案<以下の議論は抜粋>

1. 平成29年7月19日、平成29年8月4日、平成29年9月29日の3回の分科会において、機能係数2（保険診療係数）についての議論
2. 平成29年10月25日の機能係数2の議論（診療報酬改定に係るその他の課題）について

10月25日の議論の概要

◇ICD-10(2013年版)に係る対応について

<背景>

- 1) DPCにおいて使用する ICD-10 コードについて、平成30年度よりこれまでの2003年版から2013年版へと変更するため、平成28年10月以降のデータについて、通常のデータの提出(2003年版を使用)に加えて、医療機関が2013年版のコードも付与したデータ(以後、追加データ)の提出を行っている。
- 2) DPCデータの提出を評価するデータ提出加算の算定には、追加データの提出有無を判定対象としていないこともあり、通常のデータ提出は通常通り行っている医療機関でも、追加データの提出は提出期限に遅れて提出する医療機関がある。

< 課題 >

診療報酬改定に使用するデータ（平成 29 年 9 月分まで）について、データ提出期限に遅れてデータを提出する医療機関があった場合、診断群分類点数表の設定等に使用する全 DPC 病院のデータセットに組み込むことが出来ない。一方で、当該医療機関のデータ提出を待って作業を行うことは時間的に困難。

< 対応方針（案） >

追加データの提出が遅れた医療機関のデータについては、以下の取扱いとしてはどうか。

- ① 追加データに係る ICD コーディングを事務局で可能なもの（1 対1 対応のもの）については機械的に対応する。
- ② 他の医療機関のデータ等から機械的に類推できるものについては可能な限り置き換える。
- ③ 上記①、②以外については、診療実績としてはないものとして取り扱う。

◇ここまでのまとめ

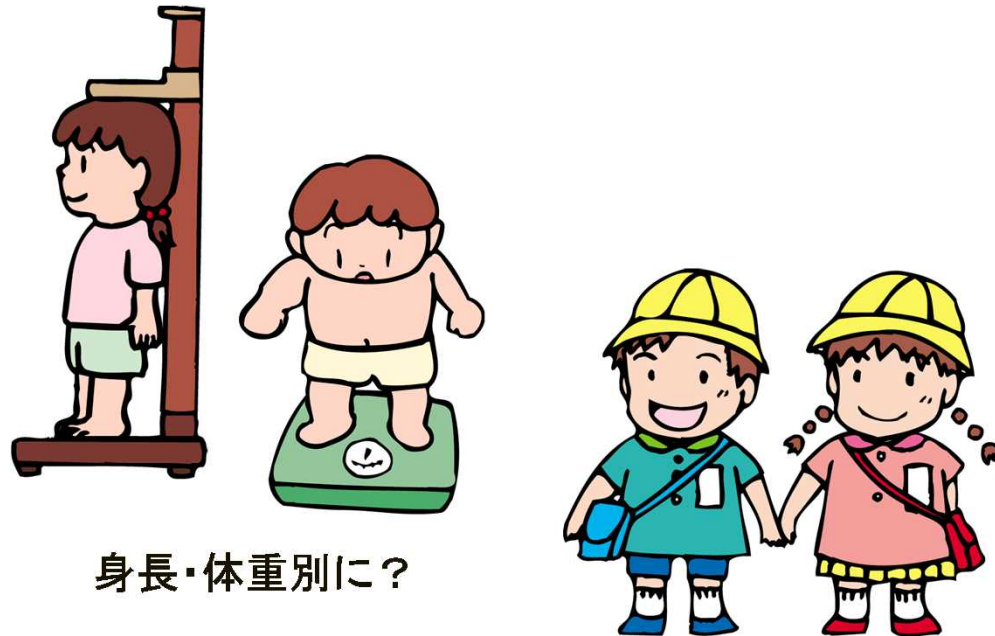
1. 部位不明・詳細不明コードの使用割合については、基準値を 10%以上に見直してはどうか
2. 未コード化傷病名の割合については、基準を 2%として
はどうか

※従来、乳幼児対象の疾患で詳細不明が多いこと、専門的領域については、どうしても標準病名マスターがカバーしきれないという指摘があった。

3) 誤りの発生要因：ICDとDPCの出自の違い

★ICDもDPCも分類(グループ分けする)方法の仲間

→ICD分類とDPC分類は患者を分類するという意味では仲間であるが、元々の出自が異なる。その理解が必要である。目的も発想も異なる。



身長・体重別に？

男女別に？

◇ICD分類

1) 死因分類から発生したものである

※少なくともリアルタイムで傷病名を分類する目的ではない

2) コーダー（第三者）が分類をするという前提。したがって、必ずしも臨床現場の考えを取り入れたものではない（世界基準）。

※我が国では厚労省統計情報部がそれにあたる（近い）

※それ故、臨床家の感覚との乖離は以前から指摘されてきた

3) 構造上の問題がある

※各分類を異なる者（国）が開発しており、対象は地球規模。DPCのように、臓器、病理の組み合わせというような構造にすべての分類が構成されているわけではない。国によって医療レベルも異なる。調査のため、恣意的な操作（ウイルス性肝硬変等）もある→2013年版改定で改善（元に戻った）。

◇DPC分類

- 1) DPCは、臨床現場の経験から開発された分類である。
- 2) 臓器（脳神経、頭頸部、眼、呼吸器・・・全身）と病理（腫瘍、炎症、変性、外傷、奇形等）の組み合わせが基本構造で有り、それゆえ臨床現場の親和性は問題ないはずである。
- 3) ICDを意識しつつも本来は無関連
 - ※傷病名に情報を含む意味は、その検証やレセプトでも必須である。
- 4) 診療内容、E、Fファイル等との整合性が必須。
 - ※ICDは詳細なルールで必ずしも診療行為との整合性が求められない場合がある。

◇医療資源を最も投入した傷病？

◇主要病態の定義→主として、患者の治療または検査に対する必要性に基づく、保健ケアのエピソードの「最後に診断された病態」

◇そのような病態が複数ある場合は、「**もっとも医療資源が使われた病態**」を選択

◇もし診断がなされなかった場合は、主要症状または異常な所見もしくは問題を主要病態とする

※疾病、傷害および死因統計分類提要ICD-10（2003年版）準拠125頁

◇いわゆる「副傷病名」の定義

主要病態に加え、可能な場合はいつでも、保健ケアのエピソードの間に取り扱われるその他の病態または問題もまた、別々に記載するべきである。

その他の病態とは、

- 1) 保健ケアのエピソードの間に**存在**し
- 2) またはその間に**悪化**して
- 3) **患者管理に影響**を与えた病態
- 4) 現在のエピソードに関連しない以前のエピソードに関連する病態は記載してはいけない。

※疾病、傷害および死因統計分類提要ICD-10（2003年版）準拠125頁

◇精度の高いコーディングができない要因

1) 曖昧な病名に基づくもの

「腎腫瘍：D41.0」→もっと情報が必要である

部位？悪性？良性？原発性？続発性？

2) コーディングについての知識不足

「新生児一過性イレウス」→新生児の意味を知らないと

：P76.1（正しい）→K56.-（誤り）

3) コーディングツールと病名マスターの無理解

「膵炎：K85」「急性膵炎：K85」

「慢性膵炎：K86.1」→「慢性+膵炎：K85」では×

※急性を優先する考え方（ICD-10 2013年版で改善）

4) 標準病名マスター

◇標準病名の理解（うまく使うために）

- 1) 傷病名マスターは、あくまで、電子カルテやレセプト表記を行う目的で開発された経緯がある→電子カルテ、レセプト用ワープロ用語集？
- 2) ICDコードが振られているといっても、副次的なものである
※コードを振ることのできない傷病名、曖昧な傷病名も多数存在
- 3) 接頭語や接尾語等の修飾語と組み合わせて初めて、日本語傷病名を構成する構造である→『unspecificなコード』、日本語訳版では、『部位不明、詳細不明等というコード』が与えられていることが多い（本来は明示されていないという意味）。
- 4) 全ての傷病名をカバーしているわけではない、全てのICDをカバーしているわけではない→ICDがついていない、つけられない傷病名もある（体内異物等）→2) のとおり傷病名に無理矢理つけるとこれになる、というものもある、という意識が必要。

◇標準病名で病名を構成した例（不適當な例）

1) 良性、悪性等の区別

(1) 胃腫瘍 (D37.1) → 「悪性」 + 胃腫瘍 (D37.1) → 本当は胃癌 (C16.9)

※ D37.1 : 胃の性状不明の新生物、詳細不明

※ただし、C16.9も精度からいうと問題あり

修飾語で帳尻をあわせるとICDが変わる!

2) 部位が明確になっていない

(1) 筋骨格系、損傷などは部位によって分類が異なる

・ 「尺骨」 + 骨折 (T14.20) → 本当は尺骨骨折 (S52.20)

※T14.2 : 部位不明の骨折

(2) 消化器系統等はかなり詳細な部位の明示を求める

・ 「噴門部」 + 胃癌 (C16.9) → 本当は噴門部癌 (C16.0)

※C16.9 : 胃の悪性新生物、部位不明

◆理解しておきたいこと

「DPC導入の影響評価に係る調査」実施説明資料から

Q：標準病名マスタを必ず使わなければならないのか。
手入力や院内で作成したマスタを用いてもよいか。

A：標準病名マスタの使用を前提とするが、そこに含まれていない等の場合は、施設独自のレコードを使っても構わない。その場合、ICD-10のコーディングはもちろん、データの仕様に準拠していること。

2. ICD-10（2013年版）改定の影響

1) 平成30年度DPCの診療報酬改定では、傷病名を定義するICD分類も同様に切り替えることが予定されている。

※ただし、現時点では分類案は公開されていない。

※また、コーディングテキストもまだDPC評価委員会で議論されていない。

2) すでにDPC病院では影響調査データの中で、必要に応じた2013年版への置き換えが特別調査として実施されている。

※しかし、データ提出に遅滞があることが指摘されている（前出）。

3) 新たな分類が必要となった分野は適切かつ精度の高いコーディングが必要である。

※自動的に置き換えるとその多くは「.9」となってしまう、新たな分類開発に支障を来す。

※既にその指摘が聞こえてくる・・・

4) 今後、分類検討班で改定案が検討されることになるが、たとえば、一例として痔核等については大きな変更もあるかもしれない。

※分類開発や妥当性の検証等、適切な評価を与えるためには高い精度のデータが必須であるため、前述のように新しい定義を理解した上で機械的ではなく正しくコードを選び直す必要がある。

◇ICD-10：2013年版

- 1) 2016年から、厚生労働省統計用に正式採用
- 2) DPCでは、平成30年度（2018年度）以降に対応→変換テーブル（改訂早見表）を作成（後述）。
 - (1) 基本的に旧コード（2003年版）から「1対1」で置き換えられるものは少ない。
 - (2) 変更となったもの（追加、削除）については、新たに選択しなおさなければならない。

※病院の確認とはこの意味が含まれる。

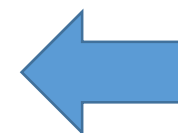
- (3) 名称変更だけのものも議論が必要か？

表3. 追加コードとそれが含まれる分類グループ (3桁)

追加コードと分類名		追加分類が含まれる分類範囲 (2003年版)		追加分類が含まれる分類範囲 (2013年版へ置き換え)	
コード	分類	コード	分類	コード	分類
A09.0	感染症が原因のその他及び詳細不明の胃腸炎及び大腸炎	A09	感染症と推定される下痢及び胃腸炎	A09.0	感染症が原因のその他及び詳細不明の胃腸炎及び大腸炎
A09.9	詳細不明の原因による胃腸炎及び大腸炎			A09.9	詳細不明の原因による胃腸炎及び大腸炎
B17.9	急性ウイルス性肝炎, 詳細不明	B17	その他の急性ウイルス性肝炎	B17.0	B型肝炎キャリア<病原体保有者>の急性デルタ(重)感染症
		B17.0	B型肝炎キャリア<病原体保有者>の急性デルタ(重)感染症	B17.1	急性C型肝炎
		B17.1	急性C型肝炎	B17.2	急性E型肝炎
		B17.2	急性E型肝炎	B17.8	その他の明示された急性ウイルス性肝炎
		B17.8	その他の明示された急性ウイルス性肝炎	B17.9	急性ウイルス性肝炎, 詳細不明
B98	他章に分類される疾患の原因であるその他の明示された感染性病原体			B98	他章に分類される疾患の原因であるその他の明示された感染性病原体
B98.0	他章に分類される疾患の原因であるヘリコバクター・ピロリ[H.pylori]			B98.0	他章に分類される疾患の原因であるヘリコバクター・ピロリ [H.pylo]
B98.1	他章に分類される疾患の原因であるビブリオ・パルニフィカス			B98.1	他章に分類される疾患の原因であるビブリオ・パルニフィカス
C79.9	続発性悪性新生物<腫瘍>, 部位不明	C79	その他の部位の続発性悪性新生物	C79.0	腎及び腎盂の続発性悪性新生物<腫瘍>
		C79.0	腎及び腎盂の続発性悪性新生物	C79.1	膀胱並びにその他及び部位不明の尿路の続発性悪性新生物<腫瘍>
		C79.1	膀胱並びにその他及び部位不明の尿路の続発性悪性新生物	C79.2	皮膚の続発性悪性新生物<腫瘍>
		C79.2	皮膚の続発性悪性新生物	C79.3	脳及び脳髄膜の続発性悪性新生物<腫瘍>
		C79.3	脳及び脳髄膜の続発性悪性新生物	C79.4	その他及び部位不明の中枢神経系の続発性悪性新生物<腫瘍>
		C79.4	眼並びにその他及び部位不明の中枢神経系の続発性悪性新生物	C79.5	骨及び骨髄の続発性悪性新生物<腫瘍>
		C79.5	骨及び骨髄の続発性悪性新生物	C79.6	卵巣の続発性悪性新生物<腫瘍>
		C79.6	卵巣の続発性悪性新生物	C79.7	副腎の続発性悪性新生物<腫瘍>
		C79.7	副腎の続発性悪性新生物	C79.8	その他の明示された部位の続発性悪性新生物<腫瘍>
		C79.8	その他の明示された部位の続発性悪性新生物	C79.9	続発性悪性新生物<腫瘍>, 部位不明
C80.0	悪性新生物<腫瘍>, 原発部位不明と記載されたもの	C80	部位の明示されない悪性新生物	C80.0	悪性新生物<腫瘍>, 部位が明示されていないもの
C80.9	悪性新生物<腫瘍>, 原発部位詳細不明			C80.9	悪性新生物<腫瘍>, 原発部位詳細不明
C81.4	リンパ球豊富型 (古典的) ホジキン<Hodgkin> リンパ腫	C81	ホジキン<Hodgkin>病	C81.0	結節性リンパ球優勢型ホジキン<Hodgkin>リンパ腫
		C81.0	リンパ球優勢型	C81.1	結節硬化型 (古典的) ホジキン<Hodgkin>リンパ腫
		C81.1	結節硬化型	C81.2	混合細胞型 (古典的) ホジキン<Hodgkin>リンパ腫
		C81.2	混合細胞型	C81.3	リンパ球減少型 (古典的) ホジキン<Hodgkin>リンパ腫
		C81.3	リンパ球減少型	C81.4	リンパ球豊富型 (古典的) ホジキン<Hodgkin>リンパ腫
		C81.7	その他のホジキン<Hodgkin>病	C81.7	その他の (古典的) ホジキン<Hodgkin>リンパ腫
		C81.9	ホジキン<Hodgkin>病, 詳細不明	C81.9	ホジキン<Hodgkin>リンパ腫,

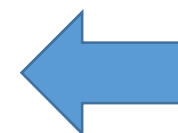
コードの変更はないが名称が変わった例→改めて確認が必要
 ※たくさんあります・・・

名称変更分類範囲（2003年版）	
コード	分類
A04.7	クロストリジウム・ディフィシルによる <u>全腸炎</u>
A09	<u>感染症と推定される下痢及び胃腸炎</u>
A25	<u>鼠咬症</u>



こだわる人
 ならちよっ
 と違うよう
 な？

名称変更分類範囲（2013年版）	
コード	分類
A04.7	クロストリジウム・ディフィシルによる <u>腸炎</u>
<u>A09</u>	<u>その他の胃腸炎及び大腸炎，感染症及び詳細 不明の原因によるもの</u>
A25	<u>鼠咬症</u>



※A09はコードの追加も行われている

用語については、日本医学会の医学用語にあわせている

The screenshot shows a web browser window displaying the homepage of the Japanese Medical Association's online medical terminology dictionary. The page title is "日本医学会 医学用語辞典 WEB版". The main content area features a large blue banner with the title and a sub-header "WEB版". Below the banner, there is a text box explaining that the dictionary's 3rd edition was published in 2007 and that an online search service was launched. It mentions that the service was improved to include Japanese and English equivalents, and that the online version was made available in April 2014. To the right of the text box, there are two book covers: "学術用語集 医学編" and "医学用語辞典 英和 第三版". Below the banner, there is a section titled "お知らせ" (Notice) with a list of updates from 2013 to 2017. To the right of the notice section, there is a section titled "辞書を使う" (Using the Dictionary) with a sub-section for "個人ユーザの方" (Individual Users) containing a "ログイン" (Login) button, a link for "パスワードを忘れた方はこちら" (Click here if you forgot your password), a note that "初めてご利用の方はユーザー登録が必要です" (First-time users must register), a "ユーザ登録する" (Register User) button, and links for "個人情報の取り扱いについて" (About personal information handling) and "利用規約" (Terms of Use). At the bottom of the page, there are two buttons: "日本医学会 医学用語辞典 WEB版について" (About the Japanese Medical Association's Online Medical Terminology Dictionary) and "委員会報告委員会報告" (Committee Report). The Windows taskbar at the bottom shows the Cortana search bar, several application icons, and the system tray with the date and time (12:38, 2017/04/22).

※余談ですが、ICD-11のβ版の翻訳作業でも同様に使いました：一度開いてみてください。

◇コードが追加された例→改めて確認が必要

追加コードと分類名	
コード	分類
A09.0	感染症が原因のその他及び詳細不明の胃腸炎及び大腸炎
A09.9	詳細不明の原因による胃腸炎及び大腸炎
B17.9	急性ウイルス性肝炎，詳細不明
B98	他章に分類される疾患の原因であるその他の明示された感染性病原体
B98.0	他章に分類される疾患の原因であるヘリコバクター・ピロリ[H.pylori]
B98.1	他章に分類される疾患の原因であるビブリオ・バルニフィカス

追加コードと分類		追加分類が含まれる分類範囲（2003年版）	
コード	分類	コード	分類
		A 09	感染症と推定される下痢及び胃腸炎
A09.0	感染症が原因のその他及び詳細		
A09.9	詳細不明の原因による胃腸炎及		
		B 17	その他の急性ウイルス肝炎
B17.9	急性ウイルス性肝炎, 詳細不明	B 17.0	B型肝炎キャリア<病原体保有者>の急性デルタ(重)感染症
		B 17.1	急性C型肝炎
		B 17.2	急性E型肝炎
		B 17.8	その他の明示された急性ウイルス肝炎
B98	他章に分類される疾患の原因であるそ		
B98.0	他章に分類される疾患の原因であるへ		
B98.1	他章に分類される疾患の原因であ		

2003年版では存在しない、しなかった。
（ことが確認出来た）

追加コードと分類		追加分類が含まれる分類範囲（2003年版）	
コード	分類	コード	分類
		A 09	感染症と推定される下痢及び胃腸炎
A09.0	感染症が原因のその他及び詳細		
A09.9	詳細不明の原因による胃腸炎及		
追加分類が含まれる分類範囲（2013年版へ置き換え）			
B17.9	コード	分類	
	A 09	その他の胃腸炎及び大腸炎、感染症及び詳細不明の原因によるもの	
	A 09. 0	感染症が原因のその他及び詳細不明の胃腸炎及び大腸炎	
	A 09. 9	詳細不明の原因による胃腸炎及び大腸炎	
B98	B 17	その他の急性ウイルス性肝炎	
B98.0	B 17. 0	B型肝炎キャリア<病原体保有者>の急性デルタ（重）感染症	
B98.1	B 17. 1	急性C型肝炎	
	B 17. 2	急性E型肝炎	
	B 17. 8	その他の明示された急性ウイルス性肝炎	
	B 17. 9	急性ウイルス性肝炎、詳細不明	
	B 98	他章に分類される疾患の原因であるその他の明示された感染性病原体	
	B 98. 0	他章に分類される疾患の原因であるヘリコバクター・ピロリ [H.pylori]	
	B 98. 1	他章に分類される疾患の原因であるビブリオ・バルニフィカス	

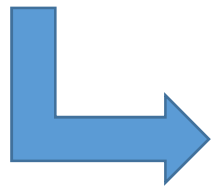
デルタ(重)感染症

2013年では加えられている。
(確認出来た)

◇完全に追加された例

追加	C86	T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型
追加	C86.0	節外性NK/T細胞リンパ腫, 鼻型
追加	C86.1	肝脾T細胞リンパ腫
追加	C86.2	腸症<腸管>型T細胞リンパ腫
追加	C86.3	皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫
追加	C86.4	芽球性NK細胞リンパ腫
追加	C86.5	血管免疫芽球性T細胞リンパ腫
追加	C86.6	原発性皮膚CD30陽性T細胞増殖

★2003年版ではC85等にされていた（C86は存在しない）。



C86	T/NK細胞リンパ腫のその他の明示された型
C86. 0	節外性NK/T細胞リンパ腫, 鼻型
C86. 1	肝脾T細胞リンパ腫
C86. 2	腸症<腸管>型T細胞リンパ腫
C86. 3	皮下脂肪組織炎様T細胞リンパ腫
C86. 4	芽球性NK細胞リンパ腫
C86. 5	血管免疫芽球性T細胞リンパ腫
C86. 6	原発性皮膚CD30陽性T細胞増殖

◇コードが削除された例→改めて確認が必要

削除コードと分類名		削除分類が含まれる分類範囲(2003年版)	
コード	分類	コード	分類
		C83	びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫
C83.2	小細胞及び大細胞混合型(びまん性)	C83.0	小細胞型(びまん性)
C83.4	免疫芽球型(びまん性)	C83.1	小切れ込み核細胞型(びまん性)
C83.6	未分化型(びまん性)	C83.2	小細胞及び大細胞混合型(びまん性)
		C83.3	大細胞型(びまん性)
		C83.4	免疫芽球型(びまん性)
		C83.5	リンパ芽球型(びまん性)
		C83.6	未分化型(びまん性)
		C83.7	バーキット<Burkitt>腫瘍
		C83.8	びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫のその他の型
		C83.9	びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫, 詳細不明

確かに存在している
(ことが確認できた)

削除コードと分類		削除分類が含まれる分類範囲(2003年版)	
コード	分類	コード	分類
		C83	びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫
C83.2	小細胞及び大細胞混合型(びまん性)	C83.0	小細胞型(びまん性)
C83.4	免疫芽球型(びまん性)	C83.1	小切れ込み核細胞型(びまん性)
C83.6	未分化型(びまん性)	C83.2	小細胞及び大細胞混合型(びまん性)
		C83.3	大細胞型(びまん性)
		C83.4	免疫芽球型(びまん性)
		C83.5	リンパ芽球型(びまん性)
		C83.6	未分化型(びまん性)
		C83.7	バーキット<Burkitt>腫瘍
		C83.8	びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫のその他の型
		C83.9	削除分類が含まれる分類範囲(2013年版へ置き換え)
		コード	分類
		C83	非ろく濾>胞性リンパ腫
		C83. 0	小細胞型B細胞性リンパ腫
		C83. 1	マントル細胞リンパ腫
		C83. 3	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
		C83. 5	リンパ芽球性(びまん性)リンパ腫
		C83. 7	バーキット<Burkitt>リンパ腫
		C83. 8	その他の非ろく濾>胞性リンパ腫
		C83. 9	非ろく濾>胞性(びまん性)リンパ腫, 詳細不明

確かに削除されている

この場合は、自動置き換えが可能か？

◇追加、削除が同時に行われているケース

削除	K35.0	汎発性腹膜炎を伴う急性虫垂炎
削除	K35.1	腹腔内膿瘍を伴う急性虫垂炎
削除	K35.9	急性虫垂炎, 詳細不明
追加	K35.2	汎発性腹膜炎を伴う急性虫垂炎
追加	K35.3	限局性腹膜炎を伴う急性虫垂炎
追加	K35.8	急性虫垂炎, その他及び詳細不明

K 35	急性虫垂炎
K 35.0	汎発性腹膜炎を伴う急性虫垂炎
K 35.1	腹腔内膿瘍を伴う急性虫垂炎
K 35.9	急性虫垂炎, 詳細不明

確かに存在

確かに追加

K 35	急性虫垂炎
K35. 2	汎発性腹膜炎を伴う急性虫垂炎
K35. 3	限局性腹膜炎を伴う急性虫垂炎
K35. 8	急性虫垂炎, その他及び詳細不明

◇移動しただけではなく定義も全く異なる例：自動置き換えは無理

184	痔核		K64	痔核及び肛門周囲静脈血栓症
184.0	血栓性内痔核	IからKへ	K64.0	第1度痔核
184.1	その他の合併症を伴う内痔核		K64.1	第2度痔核
184.2	合併症を伴わない内痔核	→	K64.2	第3度痔核
184.3	血栓性外痔核		K64.3	第4度痔核
184.4	その他の合併症を伴う外痔核		K64.4	痔核性遺残皮膚突起
184.5	合併症を伴わない外痔核		K64.5	肛門周囲静脈血栓症
184.6	残遺痔核皮膚弁		K64.8	その他の明示された痔核
184.7	詳細不明の血栓性痔核		K64.9	痔核, 詳細不明
184.8	その他の合併症を伴う詳細不明の痔核			
184.9	合併症を伴わない痔核, 詳細不明			

※内痔核、外痔核という区別がステージ別に変わる

◇現行の分類定義

○060240 外痔核

<ICD>

- 1843 血栓性外痔核
- 1844 その他の合併症を伴う外痔核
- 1845 合併症を伴わない外痔核
- 1846 残遺痔核皮膚弁
- 1847 詳細不明の血栓性痔核

※困ったことに、現行のDPC分類は内痔核、外痔核は別分類である。ICDも別分類だから当然に。

○060245 内痔核

<ICD>

- 1840 血栓性内痔核
- 1841 その他の合併症を伴う内痔核
- 1842 合併症を伴わない内痔核
- 1848 その他の合併症を伴う詳細不明の痔核
- 1849 合併症を伴わない痔核，詳細不明
- K625 肛門および直腸の出血

◇もし、標準病名マスターで自動置き換えをしてみたら？

- 1) 血栓性内痔核 (I840：血栓性内痔核) → **K648**：その他の明示された痔核
- 2) 炎症性内痔核 (I841：その他の合併症を伴う内痔核) → **K648**：その他の明示された痔核
- 3) 内痔核 (I842：合併症を伴わない内痔核) → **K649**：痔核，詳細不明
- 4) 血栓性外痔核 (I843：血栓性外痔核) → **K645**：肛門周囲静脈血栓症
- 5) 炎症性外痔核 (I844：炎症性外痔核) → **K648**：その他の明示された痔核
- 6) 外痔核 (I845：合併症を伴わない外痔核) → **K649**：痔核，詳細不明
- 7) 肛門皮垂 (I846：残遺痔核皮膚弁) → **K644**：痔核性遺残皮膚突起
- 8) 血栓性痔核 (I847：詳細不明の血栓性痔核) → **K645**：肛門周囲静脈血栓症
- 9) 出血性痔核 (I848：その他の合併症を伴う詳細不明の痔核) → **K649**：痔核，詳細不明
- 10) 痔核 (I849：合併症を伴わない痔核，詳細不明) → **K649**：痔核，詳細不明

※つまり自動置き換えをやると、**K640からK643までは出現しない！**

K64 痔核及び肛門周囲静脈血栓症

K64.0 第1度痔核

K64.1 第2度痔核

K64.2 第3度痔核

K64.3 第4度痔核

K64.4 痔核性遺残皮膚突起

K64.5 肛門周囲静脈血栓症

K64.8 その他の明示された痔核

K64.9 痔核, 詳細不明

「自動置き換え」では出てこない

※ICD (2013年版) では現行のDPC分類(内痔核、外痔核の区別あり) を維持できない→おそらく、新たな評価が検討されるであろうが、少なくとも、**K64.9のデータ**が多数派とならないようにしなければならない。

◇新たに2013年版をキーにみると、

- 1) 第1度痔核：I841（2003年）→K640
- 2) 第2度痔核：I841（2003年）→K641
- 3) 第3度痔核：I841（2003年）→K642
- 4) 第4度痔核：I841（2003年）→K643

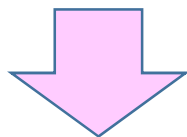
※I841：その他の合併症を伴う内痔核

つまり、2013年版からみるとひとまとめのゴミ箱になってしまう

◇3桁分類であったものが4桁に(詳細化されたもの)

2003年版

K85 急性膵炎



詳細化

2013年版

K 85	急性膵炎
K85. 0	特発性急性膵炎
K85. 1	胆石性急性膵炎
K85. 2	アルコール性急性膵炎
K85. 3	薬物性急性膵炎
K85. 8	その他の急性膵炎
K85. 9	急性膵炎, 詳細不明

※単純に自動置き換えしてしまうと、K85.9になってしまう

ERCP後膵炎	K85	K858
アルコール性急性膵炎	K85	K852
ステロイド誘発性膵炎	K85	K853
亜急性膵炎	K85	K859
化膿性膵炎	K85	K859
壊死性膵炎	K85	K859
感染性膵壊死	K85	K858
急性出血壊死性膵炎	K85	K859
急性膵炎	K85	K859
急性膵壊死	K85	K859
限局性膵炎	K85	K859
再発性急性膵炎	K85	K859
重症急性膵炎	K85	K859
術後膵炎	K85	K858
胆石性膵炎	K85	K851
特発性急性膵炎	K85	K850
浮腫性膵炎	K85	K859
慢性膵炎急性増悪	K85	K859
薬剤性膵炎	K85	K853
膵炎	K85	K859
膵膿瘍	K85	K859

自動置き換えをするとほとんどが「.9」になってしまう。

◇同様に詳細化されたケース（褥瘡）

2003年版

L 89	じょく<褥>瘡性潰瘍
------	------------

3桁コードが4桁になって詳細化

追加	L89.0	ステージⅠじょく<褥>瘡性潰瘍及び圧迫領域
追加	L89.1	ステージⅡじょく<褥>瘡性潰瘍
追加	L89.2	ステージⅢじょく<褥>瘡性潰瘍
追加	L89.3	ステージⅣじょく<褥>瘡性潰瘍
追加	L89.9	じょく<褥>瘡性潰瘍及び圧迫領域, 詳細不明

2003年版

L 89	じょく<褥>瘡性潰瘍及び圧迫領域
L89. 0	ステージⅠじょく<褥>瘡性潰瘍及び圧迫領域
L89. 1	ステージⅡじょく<褥>瘡性潰瘍
L89. 2	ステージⅢじょく<褥>瘡性潰瘍
L89. 3	ステージⅣじょく<褥>瘡性潰瘍
L89. 9	じょく<褥>瘡性潰瘍及び圧迫領域, 詳細不明

同じく自動置き換えをすると「.9」になる

◇同様に詳細化されたケース

2003年版

3桁コードが4桁になって詳細化

I 48	心房細動及び粗動
------	----------

追加	I48.0	発作性心房細動
追加	I48.1	持続性心房細動
追加	I48.2	慢性心房細動
追加	I48.3	定型心房粗動
追加	I48.4	非定型心房粗動
追加	I48.9	心房細動及び心房粗動, 詳細不明

2003年版

I48	心房細動及び粗動
I48. 0	発作性心房細動
I48. 1	持続性心房細動
I48. 2	慢性心房細動
I48. 3	定型心房粗動
I48. 4	非定型心房粗動
I48. 9	心房細動及び心房粗動, 詳細不明

同じく自動置き換えをすると「.9」になる

◇2013年版への移行のまとめ

- 1) 新たな分類が必要となった分野は適切かつ精度の高いコーディングが必要である。
※自動的に置き換えるとその多くは「.9」となってしまい、新たな分類開発に支障を来す。
- 2) 今後、分類検討班で改定案が検討されることになるが、たとえば、一例として痔核については大きな変更もあるかもしれない。
※分類開発や妥当性の検証等、適切な評価を与えるためには高い精度のデータが必須であるため、前述のように新しい定義を理解した上で機械的ではなく正しくコードを選び直す必要がある。

3) ウイルス性肝硬変が、Bコード（感染症）からBコードとKコードのWコーディングを行うこととされ、適切なコーディングがされるように改善されたが適切な分類開発のためにはこちらもBとKを明確に区分するための、精度の高いコーディングデータが必須である。

(1) 平成28年12月2日の第19回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会において、ICD-10（2013年版）提要の修正（案）として、B型肝硬変、C型肝硬変のコードをB18.-にK74.6*を追加として、ダブルコーディングのルールを適用されることとされた。

- (2) この問題は、ICD-10の2003年版に改定されていた時から。従来は肝硬変と整理されていたウイルス性の肝硬変が感染症としてコードされるよう索引を恣意的に変更して以来の課題への対応。
- (3) 肝炎と肝硬変とでは治療内容も異なることもあり、改善が求められていたがそれに応えた形となっている。

- (4) すなわち、2003年版では感染症としての取り扱いであったが、死亡統計など原因をコーディングする際は、従来どおり B18.-のコードを使用する。その他、症状発現の統計を取ることが適当と考えられる場合は、K74.6 をコードすることが可能とされた。
- (5) したがって、該当する場合は、感染症としての治療をしたのか、肝硬変としての治療をしたのかで適切な分類が可能となっている。

B 18 慢性ウイルス肝炎

- B 18.0 慢性B型ウイルス肝炎，デルタ因子(重複感染)を伴うもの
- B 18.1 慢性B型ウイルス肝炎，デルタ因子(重複感染)を伴わないもの
- B 18.2 慢性C型ウイルス肝炎
- B 18.8 その他の慢性ウイルス肝炎
- B 18.9 慢性ウイルス肝炎，詳細不明

K 74 肝線維症及び肝硬変

- K 74.0 肝線維症
- K 74.1 肝硬化症
- K 74.2 肝硬化症を伴う肝線維症
- K 74.3 原発性胆汁性肝硬変
- K 74.4 続発性胆汁性肝硬変
- K 74.5 胆汁性肝硬変，詳細不明
- K 74.6 その他及び詳細不明の肝硬変

4) 病院のデータ「確認」については、慎重かつ適切に行い、精度の高いデータが必要で、担当者においては改定への十分な理解が必要である。以下対応策をまとめてみる。

(1) 今まで述べて来たことを総合すると、例えば標準病名マスターに2013年版コードがあっても、「.9」コードを振るしかなくなってしまう、自動置き換えは極めて曖昧なコーディング結果（自動置き換えるの限界）となる

※妥協すれば、置き換えは100%可能ではある。しかし、本来は、正しく診療記録に基づき、新しい定義や分類分野で再コーディングする必要がある。

- (2) したがって、2013年版への置き換えについては、現実問題、作業時間を考慮すると、ある程度「.9」になってしまうことは仕方がないのかもしれない(診療記録のレベルまで踏み込んで考えなければならない)。しかし、どうしても、分類開発のために必要となるであろうコードだけはきちんとした再コーディングが必要であることは理解しておきたい。
- (3) 今回の研究成果の「対応表」によって、少なくとも改定の全体像、特に、新たな定義への変更や移動先等を全体的に把握出来るので、再コーディングには十分に役立つのではないかと考えている。

◇コーディングテキスト改定についての方向性

- 1) ICD-10 (2013年版) 改定に伴う変更→新たに追加、削除されたコード
- 2) 従来から議論のあった問題についての対応
- 3) DPC分類改定に合わせた留意点等の見直し
- 4) DPC分類改定に合わせた新たなICD上の問題解決

ご静聴ありがとうございました。

本日の講演中でご紹介したICD-10の2013年版改定について、資料を希望される方は以下の私のアドレスに、「★2013年版資料」としてメールしてください。

インターネットディスクにあげてダウンロード出来るようにするつもりです。

mako@mw.kawasaki-m.ac.jp